学校番号	２２０１

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）教養数学入門	単位数	２	年次	２～３
使用教科書	なし						
副教材等	ベストステップ　数学Ⅰ・Ａ　（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では問題集を用いて基本事項の解説および問題演習を行います。また、一人一人の習熟度に応じて難易度の高い問題演習も行います。
・社会に対応できる教養的数学知識を効果的に学習できるようにと考え開講しました。

２　学習の到達目標

① 数学Ⅰと数学Ａの範囲、具体的には、数と式，図形と計量，２次関数、集合、場合の数と確率について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

② 事象を数学的に考察したり，多面的・発展的に考えたりすることを通して，解決の過程や結果を批判的に考察・判断する力を養う。

③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、２次関数、図形の性質，場合の数と確率、集合についての基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。 また、事象を数学的に表現・処理する仕方や関数をグラフ上にかくなどの技能を身に付けている。	数と式、２次関数、図形の性質，場合の数と確率、集合について事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	数学のよさを認識し数学を活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期・後期		実数と計算 比と歩合 整式 乗法公式 因数分解	a:計算の優先順位を理解し、展開や因数分解ができる。 b:展開の公式がなぜ成り立つかを分配法則をもとに考察することができる。 c:計算方法に関心をもち、積極的に習得しようとする。	小テスト プレ定期考査 課題提出	小テスト プレ定期考査 課題提出	ﾜｰｸ提出 授業態度 課題提出
		関数とグラフ ２次関数のグラフ ２次関数の最大・最小 1次方程式 連立方程式 ２次方程式 不等式 連立不等式	a:放物線の形や軸、頂点について理解し平行移動をすることができる。 b:関数を表、式、グラフによって考察することができる。 c:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、不等式を問題解決に活用しようとしている。	小テスト 定期考査 課題提出	小テスト 定期考査 課題提出	ﾜｰｸ提出 授業態度 課題提出
		図形と計量 平面図形 面積・体積 文章題	a:直角三角形において、正弦・余弦・正接が求められる。 b:測量の問題に三角比を活用できる。 c:直接測ることのできない距離を求めるのに興味・関心がある。	小テスト プレ定期考査 課題提出	小テスト プレ定期考査 課題提出	ﾜｰｸ提出 授業態度 課題提出
		集合と場合の数 順列 組合せ 確率 データの分析 整数の性質 総合問題	a:集合の要素の個数に関する基本的な関係や、具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し,確率の意味や法則についての理解を深め,それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 b:事象の構造などに着目し,場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 c:場合の数と確率で学んだことのよさを認識し活用したり,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	小テスト 定期考査 課題提出	小テスト 定期考査 課題提出	ﾜｰｸ提出 授業態度 課題提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度